

## 附録1 尾崎三雄略歴

- 1902(明治35)年 11月6日 山口県山口市(旧吉敷郡平川村)黒川の徳光家に生まれる
- 1920(大正9)年 18歳 3月30日 山口県立農業学校卒業
- 1923(大正12)年 21歳 4月20日 東京帝国大学農学部農業実科卒業
- 5月1日 農商務省農業練習生となる
- 1943(昭和18)年 41歳 10月11日 農商務省農産課勤務
- 12月28日 農商務省農作物病虫害駆除予防に関する事務取扱いを嘱託される
- 1944(昭和19)年 42歳 12月28日 植物検査所門司支所勤務、植物検査事務を嘱託される
- 1927(昭和2)年 25歳 5月31日 尾崎家へ養子に入る
- 1945(昭和20)年 43歳 7月30日 農林技手となる
- 7月30日 農林省農務局農産課勤務
- 1935(昭和10)年 33歳 7月23日 アフガニスタン政府の招聘によりアフガニスタン行きの話あり
- 8月8日 契約締結内諾通知
- 1947(昭和22)年 45歳 8月23日 農林技師となり、農務局農産課勤務
- 1948(昭和23)年 46歳 8月24日 日本政府より正式許可
- 9月7日 アフガニスタン政府と雇用契約
- 9月23日 東京を出発
- 11月7日 アフガニスタン入国
- 1936(昭和11)年 34歳 9月29日～10月31日 ジャララバード紀行(第一回)
- 11月23日～12月16日 ジャララバード紀行(第二回)
- 12月27日～翌年2月13日 カンダハル紀行(第一回)
- 1937(昭和12)年 35歳 6月13日～6月28日 カンダハル紀行(第二回)
- 1938(昭和13)年 36歳 9月6日 アフガニスタン政府との雇用契約解消
- 1954(昭和29)年 62歳 9月7日 水産局水産課兼農務局農産課勤務扱いとなる
- 1956(昭和31)年 64歳 9月19日 アフガニスタン出国
- 1958(昭和33)年 66歳 6月17日 インド、イラン、イラク、トルコ、ブルガリア、ユーゴスラビア、
- 1964(昭和39)年 72歳 8月1日 イタリア、スイス、ドイツ、オランダ、ベルギー、フランス、

- イギリス、アメリカ各国の農業視察
- 1939(昭和14)年37歳 2月7日 帰国
- 1941(昭和16)年39歳 1月20日 訪日「アフガニスタン」国経済使節歓迎委員幹事
- 1941(昭和16)年39歳 2月11日 農政局農産課勤務
- 1941(昭和16)年39歳 2月18日 食糧増産技術中央本部員
- 1941(昭和16)年39歳 7月12日 海軍省事務兼海南警備府事務を嘱託され、海南島へ出張
- 1943(昭和18)年41歳 11月1日 農商技師となる
- 1945(昭和20)年43歳 12月30日 陸軍技師となる
- 1944(昭和19)年42歳 1月28日 農商技師兼任となり、農政局勤務
- 1944(昭和19)年42歳 1~4月 南方視察
- 1945(昭和20)年43歳 8月26日 農林技師兼任となる
- 1945(昭和20)年43歳 10月26日 専任農林技師となる
- 1946(昭和21)年44歳 3月25日 退官
- 1946(昭和21)年44歳 3月26日 農業自営
- 1947(昭和22)年45歳 10月20日 山口県農業協同組合設立諮問委員会委員
- 1948(昭和23)年46歳 2月20日 小野村農業会資産処理委員
- 1948(昭和23)年46歳 3月1日 小野村農業協同組合運営委員
- 1948(昭和23)年46歳 5月13日 小野村食糧増産対策委員会委員
- 1948(昭和23)年46歳 5月20日 小野村嘱託員集会常任委員
- 1949(昭和24)年47歳 1月6日 小野村農業調整委員会選任委員
- 1949(昭和24)年47歳 6月30日 山口県技術吏員となり、山口県庁経済部農業改良課長と山口県農業試験場長を兼務
- 1950(昭和25)年48歳 8月1日 農業試験場職域給興委員会長
- 1952(昭和27)年50歳 3月 山口県庁経済部農業改良課長を解任
- 1954(昭和29)年52歳 3月1日 山口県農作物優良品種調査審議会委員
- 1956(昭和31)年54歳 4月7日 昭和天皇行幸に際して山口県農業試験場を案内
- 1958(昭和33)年56歳 6月17日 山口県「はえと蚊のいない生活」実践運動推進対策本部幹事
- 1959(昭和34)年57歳 8月1日 山口県酪農経営改善推進本部員

附録2 尾崎三郎	9月1日	山口市建設審議会委員	
	10月20日	畑作病虫害対策本部員	
日本国保記事	10月24日	農業試験場防府分場長（兼農業試験場長）	防府記事
1960(昭和35)年58歳	6月24日	山口県特産農業推進協議会委員（幹事）	
	10月1日	山口県農業協同組合中央会講師	山口県農業協同組合中央会
1961(昭和36)年59歳	10月	山口県農業試験場長を辞職	
		農業自営	
1985(昭和60)年83歳	12月2日	死去	

附録2 尾崎三雄関係年表

日本関係記事	アフガニスタン関係記事	尾崎三雄関係記事
1904.2 日露戦争開戦	1901.10.1 国王アブドゥル・ラフマーン(1880-)死去、ハビーブッラー即位 1919.3.3 アマーヌッラー即位、第三次アフガン戦争の後 1921.12.2 英国も独立を承認	1902.11.6 山口市黒川に生れる
1923.9.1 関東大震災	1923.4.10 最初のアフガン国憲法発布 1929.1.18 バッチェ・サカウによる王位篡奪	1923 東京帝国大学農学部農学実科を卒業、農商務省に入省
1932.5.15 海軍将校ら犬養毅首相を射殺	1929.10.17 ナーディ・シャー即位 1933.11 ザーヒル・シャー(-1973)即位	1935.7.23 アフガニスタン行きの話ある 1935.10 妻鈴子を伴ってア
1936.2.26 皇道派青年将校クーデタ	1934 日本と外交関係樹立、カーブルに公使館設置(北田正元公使) 1936 パシュトー語をダリー語と並び公用語と定める	1935.10 妻鈴子を伴ってア
1937.7.7 盧溝橋事件 1937.7.28 日本軍が華北で総攻撃を開始	1937 ルフトハンザがベルリン・カーブル間に就航	1937.1.3 ダーウッド・ハーソンに面会
1937.11.6 日独伊防共協定		

<p>1939.8 独ソ不可侵条約</p>		<p>1938.9 カールから帰途につく</p> <p>1939.2.7 単身13ヶ国視察旅行の後帰国</p>
<p>1940.9.27 三国軍事同盟</p>	<p>1940.1.12 17歳以上の男子皆兵制度導入</p> <p>1940.7.29 ソ連との通商条約に調印</p> <p>1940.8.17 ザーヒル・シャー、第二次大戦で中立を宣言</p>	<p>1939.12 アフガニスタン倶楽部役員となる</p> <p>1939 「現代アフガニスタンの構成」他公刊</p>
<p>1941.12.8 日本軍がハワイ真珠湾攻撃</p>	<p>1941.10.19 英国・ソ連の要求によりドイツ・イタリアの居住民を国外退去</p>	<p>1941.1.1 日記に「決意断行」と記す</p> <p>1941.1 アフガニスタン経済使節団が来日</p> <p>1941.7.12 海軍省囑託として海南島に出張、九死に一生を得る</p>
<p>1942.8.7 米軍がガダルカナル島上陸</p>	<p>1943.5.16 ニューヨークにア国公使館開設</p>	<p>1944.1.6 陸軍技師の辞令、以後主に南方戦地における食糧自給対策に従事</p>
<p>1943.4.18 山本五十六、ソロモン上空で戦死</p>	<p>1944.3.5 中国と友好条約に調印</p>	<p>1944 翻訳『アフガニスタンの農業』を刊行</p>
<p>1944.11.24 B29 が東京初空襲</p> <p>1945.2.19 米軍が硫黄島に上陸</p>		<p>1944.10 東京で小型パラチ</p>

1945. 8. 6/9 米軍が広島・長崎に原爆投下		フスを発病
1946. 1. 1 天皇の人間宣言		1945. 8. 15 東京で終戦を迎える
1946. 11. 3 日本国憲法公布	1946 カーブル大学が開校	1945. 9. 15 農林省復帰挨拶、同時に退官願を提出
1948. 11. 12 極東国際軍事裁判所が判決	1951. 2. 9 米国と技術協力に調印、以後米ソの援助競争が激化	1946. 3 農商務省を辞し、郷里山口県防府市で農業に従事する
	1979. 12. 27 ソ連軍が侵攻	1949. 6. 30 山口県農業試験場長となる
		1956. 4. 7 天皇山口行幸の際、試験場を案内
		1961 試験場長を辞す
		1985. 12 郷里山口で死去（享年 83 歳）

\* 著者名は、「橋 光三」となっているが、これは長崎の旧姓時の氏名である橋光三郎に由来するものと思われる。

### 附録3 尾崎三雄戦前著作リスト

- 1934年9月1日 「稲作害虫の被害状況及駆除豫防法」『理科教育』9月号、6-12頁。
- 1939年4月1日 「神秘の國アフガニスタン語る」『實業之日本』4月1日号、64-67頁。
- 1939年4月1日 (グラビア)「砂漠の中に建つ國——東洋の神秘國アフガニスタン」『實業之日本』4月1日号。
- 1939年4月15日 (談)「アフガニスタンのメロン——口繪の説明」『青果時報』4月号、21頁。
- 1939年6月1日 「アフガンの回教問題と國政現況」『大亞細亞主義』6月号、24-26頁
- 1939年6月26日 『亜細亞の新興國アフガニスタン』(日本國際協會)。
- 1939年9月1日 「現代アフガニスタンの構成」『新亜細亞』1巻2号、129-140頁。
- 1939年10月15日 「アフガニスタンの産業に就て」『日印協會會報』69号、81-89頁。
- 1939年10月25日 (座談会)「亞細亞諸邦の觀光事情語る」『國際觀光』秋季号、32-51頁。
- 1939年11月1日 「カシミール遊記」『旅』11月号、18-22頁。
- 1939年12月1日 「農業を通じて見たるアフガニスタンの断片」『回教圈』3巻6号、2-14頁。
- 1939年12月1日 (グラビア)「アフガニスタンの片影」『回教圈』3巻6号。
- 1939年3月 「アフガニスタン土産 素晴らしい柘榴とメロン——歸朝した尾崎技師」『青果時報』3月号。
- 1940年2月1日 「アフガニスタン人と回教」『大日』216号、30-33頁。
- 1940年3月15日 『アフガニスタンの農業事情』中央アジア叢書第五集、中央アジア研究会<sup>99</sup>。
- 1940年5月10日 「外人購買者の眼に映るアフガニスタン」『日印協會會報』71号、80-88頁。
- 1940年7月25日 (座談会)『アフガニスタン語る』農村更生協會。
- 1941年1月1日 「アフガン國境線の性格」『大亞細亞主義』1月号、30-33頁。
- 1941年4月16日 (グラビア)「アフガニスタン經濟使節團來訪——アフガニスタンとはどんな國か」『寫眞週報』4月16日号、6-7頁。

<sup>99</sup> 著者名は、「徳光三」となっているが、これは尾崎の旧姓時の氏名である徳光三雄に由来するものと思われる。

- 1941年6月8日 「アフガニスタンの感傷」『アジア歴史叢書月報2』(目黒書店)、4-6頁。
- 1941年7月5日 「現代アフガニスタンの大観」『中アジアの風雲』(目黒書店)、155-235頁。
- 1942年6月30日 「アフガニスタンの人々とお茶」『アフガニスタン協会々報』1号、31-47頁。
- 1942年6月30日 「アフガニスタンの暦」『アフガニスタン協会々報』1号、62-66頁。
- 1942年9月10日 「アフガニスタンの人々と茶」『茶』9月号、10-16頁。
- 1942年12月28日 「アフガニスタンの行政機関」『アフガニスタン協会報』2号、60-77頁。
- 1943年3月20日 「現代アフガニスタン」『西南亜細亜の歴史と文化』満鉄東亜経済調査局新亜細亜編集部編(大和書房)、237-260頁。
- 1944年6月15日 (翻訳) ヴァヴィーロフ; ブキーニッチ著『アフガニスタンの農業』。

- 17巻9号 2頁 1950年9月1日 「巻頭言—「参観デー」を開催するに当たって」
- 18巻1号 2頁 1951年1月1日 「年頭言」
- 18巻6号 3頁 1951年6月1日 「巻頭言」
- 18巻9号 2頁 1951年9月1日 「巻頭言」
- 18巻11号 2頁 1951年11月1日 「梗と穂と軸」
- 19巻1号 2頁 1952年1月1日 「巻頭言」
- 19巻6号 2頁 1952年6月1日 「巻頭言」
- 19巻6号 2頁 1952年6月1日 「巻頭言」
- 19巻7号 2頁 1952年7月1日 「巻頭言」
- 19巻11号 2頁 1952年11月1日 「成り立つ農業」
- 20巻1号 2頁 1953年1月1日 「巻頭言」
- 20巻10号 2頁 1953年10月1日 「新しく生きる道を求めて」
- 21巻1号 3頁 1954年1月1日 「巻頭言」
- 21巻3号2-3頁 1954年5月1日 「山口縣では誰が農業をやっているか」
- 22巻3号 2頁 1955年3月1日 「仕事をやり遂げるといふこと」
- 22巻7号 2頁 1955年7月1日 「農業技術が生産に役立つ限界点について」
- 22巻8号 2頁 1955年8月1日 「農業経営が果すべき役割」
- 22巻11号 2頁 1955年11月1日 「生活の中に求めているもの」



附録4 尾崎三雄戦後著作リスト

『月刊雨読』山口県農業試験場

- |                |     |                 |                       |
|----------------|-----|-----------------|-----------------------|
| 16 卷 8 号       | 2 頁 | 1949 年 8 月 1 日  | 「巻頭言」                 |
| 16 卷 11 号      | 2 頁 | 1949 年 11 月 1 日 | 「巻頭言」                 |
| 17 卷 1 号       | 2 頁 | 1950 年 1 月 1 日  | 「巻頭言」                 |
| 17 卷 3 号       | 2 頁 | 1950 年 3 月 1 日  | 「巻頭言」                 |
| 17 卷 4 号       | 2 頁 | 1950 年 4 月 1 日  | 「巻頭言」                 |
| 17 卷 6 号       | 2 頁 | 1950 年 6 月 1 日  | 「巻頭言」                 |
| 17 卷 8 号       | 2 頁 | 1950 年 8 月 1 日  | 「巻頭言」                 |
| 17 卷 9 号       | 2 頁 | 1950 年 9 月 1 日  | 「巻頭言—「参観デー」を開催するに方りて」 |
| 18 卷 1 号       | 2 頁 | 1951 年 1 月 1 日  | 「年頭言」                 |
| 18 卷 5 号       | 2 頁 | 1951 年 5 月 1 日  | 「巻頭言」                 |
| 18 卷 9 号       | 2 頁 | 1951 年 9 月 1 日  | 「巻頭言」                 |
| 18 卷 11 号      | 2 頁 | 1951 年 11 月 1 日 | 「粳と糯と粳」               |
| 19 卷 1 号       | 2 頁 | 1952 年 1 月 1 日  | 「巻頭言」                 |
| 19 卷 5 号       | 2 頁 | 1952 年 5 月 1 日  | 「巻頭言」                 |
| 19 卷 6 号       | 2 頁 | 1952 年 6 月 1 日  | 「巻頭言」                 |
| 19 卷 7 号       | 2 頁 | 1952 年 7 月 1 日  | 「巻頭言」                 |
| 19 卷 11 号      | 2 頁 | 1952 年 11 月 1 日 | 「成り立つ農業」              |
| 20 卷 1 号       | 2 頁 | 1953 年 1 月 1 日  | 「巻頭言」                 |
| 20 卷 10 号      | 2 頁 | 1953 年 10 月 1 日 | 「新しく生きる道を求めて」         |
| 21 卷 1 号       | 2 頁 | 1954 年 1 月 1 日  | 「巻頭言」                 |
| 21 卷 5 号 2-3 頁 |     | 1954 年 5 月 1 日  | 「山口縣では誰が農業をやっているか」    |
| 22 卷 3 号       | 2 頁 | 1955 年 3 月 1 日  | 「仕事をやり遂げるといふこと」       |
| 22 卷 7 号       | 2 頁 | 1955 年 7 月 1 日  | 「農業技術が生産に役立つ限界点について」  |
| 22 卷 8 号       | 2 頁 | 1955 年 8 月 1 日  | 「農業経営が果すべき役割」         |
| 22 卷 11 号      | 2 頁 | 1955 年 11 月 1 日 | 「生活の中に求めているもの」        |

- 22 卷 12 号 2 頁 1955 年 12 月 1 日 「豊作に思う」
- 23 卷 1 号 2 頁 1956 年 1 月 1 日 「巻頭言」
- 23 卷 4 号 2 頁 1956 年 4 月 1 日 「天皇皇后両陛下をお迎えするにあたりて」
- 23 卷 5 号 2-3 頁 1956 年 5 月 1 日 「天皇皇后両陛下をお迎えして」
- 23 卷 11 号 2 頁 1956 年 11 月 1 日 「巻頭言」
- 23 卷 12 号 2 頁 1956 年 12 月 1 日 「巻頭言」
- 24 卷 1 号 2 頁 1957 年 1 月 1 日 「巻頭言」
- 24 卷 7 号 2 頁 1957 年 7 月 1 日 「農業への希望」
- 24 卷 9 号 2 頁 1957 年 9 月 1 日 「巻頭言」
- 24 卷 11 号 2 頁 1957 年 11 月 1 日 「巻頭言」
- 24 卷 12 号 2 頁 1957 年 12 月 1 日 「雑誌の改訂について」

『農業山口』山口県農業試験場内雨読会

- 1 卷 1 号 9 頁 1958 年 1 月 1 日 「道しるべ」
- 1 卷 2 号 9 頁 1958 年 2 月 1 日 「道しるべ」
- 1 卷 3 号 9 頁 1958 年 3 月 1 日 「道しるべ—ほんとうの姿は何んだろう」
- 1 卷 4 号 9 頁 1958 年 4 月 1 日 「道しるべ—生きようとする人の心」
- 1 卷 5 号 9 頁 1958 年 5 月 1 日 「道しるべ—理解」
- 1 卷 6 号 9 頁 1958 年 6 月 1 日 「道しるべ—感謝」
- 1 卷 7 号 9 頁 1958 年 7 月 1 日 「道しるべ—幸福」
- 1 卷 8 号 9 頁 1958 年 8 月 1 日 「道しるべ—文化」
- 1 卷 9 号 9 頁 1958 年 9 月 1 日 「道しるべ—立場」
- 1 卷 10 号 9 頁 1958 年 10 月 1 日 「道しるべ—適応 (時代の動きにおくれず)」
- 1 卷 11 号 9 頁 1958 年 11 月 1 日 「道しるべ—みのり」
- 1 卷 12 号 9 頁 1958 年 12 月 1 日 「道しるべ—同じことでも」
- 2 卷 1 号 9 頁 1959 年 1 月 1 日 「道しるべ—必然」
- 2 卷 2 号 9 頁 1959 年 2 月 1 日 「道しるべ—わが身」
- 2 卷 3 号 9 頁 1959 年 3 月 1 日 「道しるべ—心の置きどころ」
- 2 卷 4 号 9 頁 1959 年 4 月 1 日 「道しるべ—われら農人もまた人間なり」

- 2巻 5号 9頁 1959年5月1日 「道しるべ—信と疑」
- 2巻 6号 9頁 1959年6月1日 「道しるべ—心しだい」
- 2巻 7号 9頁 1959年7月1日 「道しるべ—意欲」
- 2巻 8号 9頁 1959年8月1日 「道しるべ—生きる姿」
- 2巻 9号 9頁 1959年9月1日 「道しるべ—ワシントンにて」
- 2巻 10号 9頁 1959年10月1日 「道しるべ—ホートコリンズにて」
- 2巻 11号 9頁 1959年11月1日 「道しるべ—条件反射」
- 2巻 12号 9頁 1959年12月1日 「道しるべ—何が違っているのか」
- 3巻 1号 9頁 1960年1月1日 「道しるべ—父と母の手」
- 3巻 2号 9頁 1960年2月1日 「道しるべ—物ごとは生きるための必要から生れる」
- 3巻 3号 9頁 1960年3月1日 「道しるべ—業の裁き」
- 3巻 4号 9頁 1960年4月1日 「道しるべ—別のものと同じもの」
- 3巻 5号 9頁 1960年5月1日 「道しるべ—土に生きる人生」
- 3巻 6号 9頁 1960年6月1日 「道しるべ—ものは言いよう考えよう」
- 3巻 7号 9頁 1960年7月1日 「道しるべ—他人のした苦労はわからないもの」
- 3巻 8号 9頁 1960年8月1日 「道しるべ—自立心」
- 3巻 9号 9頁 1960年9月1日 「道しるべ—自分の外に自分はない」
- 3巻 10号 9頁 1960年10月1日 「道しるべ—二つの生き方」
- 3巻 11号 61頁 1960年11月1日 「ノアの箱船」
- 3巻 12号 9頁 1960年12月1日 「道しるべ—喜び」
- 4巻 1号 9頁 1961年1月1日 「道しるべ—祝福」
- 4巻 2号 9頁 1961年2月1日 「道しるべ—ものごとの値打ち」
- 4巻 3号 9頁 1961年3月1日 「道しるべ—身勝手」
- 4巻 4号 9頁 1961年4月1日 「道しるべ—いつも心豊かに」
- 4巻 5号 9頁 1961年5月1日 「道しるべ—栄枯」
- 4巻 6号 5頁 1961年6月1日 「道しるべ—善意と悪意」
- 4巻 7号 9頁 1961年7月1日 「道しるべ—実在するもの」
- 4巻 8号 9頁 1961年8月1日 「道しるべ—他人のすることは」

附録 4巻 9号 9頁 1961年9月1日 「道しるべ—どこか間違っている」

4巻 10号 9頁 1961年10月1日 「道しるべ—良いお茶も悪いお茶」

4巻 11号 9頁 1961年11月1日 「道しるべ—新たなる道を求めて」

『防府市農業委員会だより』防府市農業委員会事務局

第2号、1頁 1979年3月31日「随想—厳しく育てられるいちご」

『日本人が見た'30年代のアフガン』石風社、2003年。

## 附録5 尾崎三雄関係新聞記事リスト

「世界の屋根——アフガニスタンへ 伸ばす技術の手——果樹蔬菜の栽培指導に出発する尾崎技師夫妻」『読売新聞』1935年8月24日、朝刊7面。

「お百姓の先生に役人初洋行——アフガニスタンまで」『時事新聞』1935年8月29日、11面。

「尾崎農林技師“アフガニスタン”へ——同國の招聘により……病虫害驅除指導に」『関門日日新聞』1935年8月29日、朝刊2面。

「世界の屋根に農業指導にゆく——選ばれた尾崎技師 健氣な決意して夫人も同伴」『大阪毎日新聞山口版』1935年9月26日、5面。

「日本を慕ふアフガン——尾崎農林技師の土産話」『読売新聞』1939年2月8日、第一夕刊1面（尾崎宅所蔵版は「英ソの壓迫から日本を慕ふアフガン」）。

「“神秘の國”の土産話」『東京日日新聞』1939年2月8日、夕刊2面。

「お伽噺の國は和製づくめ——アフガニスタン土産」『東京朝日新聞』1939年2月8日、夕刊2面。

「愉快・らくだと兵隊——山の奥にも日本商品の活躍 アフガニスタン尾崎氏の土産話」『東京毎夕新聞』1939年2月8日、夕刊2面。

「“今も夢の國”——尾崎氏のアフガニスタン土産話」『都新聞』1939年2月8日、夕刊2面（尾崎宅所蔵版は「いまなほ夢の國」）

「夢のアフガン 尾崎技師のお土産話——厚い時・外套着る 女は見られず・酒は御法度」『報知新聞』1939年3月12日、正午版2面。

「夢のアフガン 尾崎技師のお土産話（下）——顔を見ぬ悲喜劇 これは珍・結婚の儀式」『報知新聞』1939年3月15日、正午版2面。

「私の健康法——朝早く新しい空気を」『防長新聞』1960年、6月18日。

## 附録6 尾崎三雄所蔵新聞記事リスト

「戦雲漂ふ熱河・地と人の概観——關内の治乱と離れ満州領千年の平和郷 百萬余の蒙古族 解放を望む久し」『大阪朝日新聞』1933年2月18日。

「錦旗翻る北海道——尊き開拓者の倂ケ將軍の傳記成る」『大阪朝日新聞』1935年10月11日。

「世界の名犬 日本に一匹?——奇しき因縁で渡來した アフガニスタン産」『東京朝日新聞』1935年10月20日。

「遠く呼ぶ親友邦 アフガニスタン王國——留學生とスポーツの親善」出所不明、1935年10月21日。

「無任所大臣——淵源はプロシヤ法制 日本で先例は五回 内閣官制第十條に規定」『大阪朝日新聞』1936年10月10日。

「ギリシャからパレスチナへ——貧困、頽廢に悩む橄欖の實る古國 めまぐるしい希臘の政變」『大阪朝日新聞』1936年10月13日。

「ギリシャからパレスチナへ——新文化の創造に聯邦運動の奔流 アラブ族が各國に互って」『大阪朝日新聞』1936年10月14日。

「ギリシャからパレスチナへ——流れ込むユダヤにアラビヤ人の抗争 平和の夢破れて騒擾の巷に」『大阪朝日新聞』1936年10月15日。

「危害除けに僧服で 十ヶ國をテクる——“神風”コース八ヶ月の旅から 慶大生飄然と歸る」『大阪朝日新聞』1937年4月19日。

「トプシー婆さんが 日本一七つ兒のお産——アフガン生れお婿さんは二歳」『東京朝日新聞』1937年6月10日。

「独裁者スターリン——流血に平然たる粗暴の『鋼鉄人』 【上】投獄-投獄の半生」『大阪朝日新聞』1937年6月20日。

「無任所大臣——議會主義下では凋落の傾向に」『大阪朝日新聞』1937年6月21日。

「独裁者スターリン——宿敵トロツキーと火花の散る鬭争 【下】“鋼鉄人”の生活断片」『大阪朝日新聞』1937年6月21日。

「利劍——日本刀のもる智慧」『大阪朝日新聞』1937年12月14日。

「ニュースを解く——回教徒の怒り 五馬聯盟の反蔣運動」『大阪朝日新聞』1938年4月

2日。

「中國教徒代表 北京出發、日本へ——東京の回教大會に出席」『大阪朝日新聞』1938年5月3日。

「守屋アフガニスタン公使赴任」『大阪朝日新聞』1938年5月5日。

「黄金の刀嚴めし アラビヤの王子來朝——東京の回教大會に出席」『大阪朝日新聞』1938年5月8日。

「アラビヤの珍客 大臣廻り——意義深き交歓」『大阪朝日新聞』1938年5月11日。

「回教聖典に誓ふ『防共』——アラビヤ王子ら四十数カ國代表迎へ 帝都で盛んな禮拜堂開堂式」『大阪朝日新聞』1938年5月13日。

「花々しき“世紀の放送”——戦地にマイク据ゑ 大會の實況を故國へ 東京からはアラビヤ王子が“正義日本”を讃ふ聲」『大阪朝日新聞』1938年5月18日。

「ヴァガボンド近東通信(2)——トルコはいま鹿鳴館時代 獨立運動の氣魄漸く薄らぐ」『大阪朝日新聞』1938年5月19日。

「ヴァガボンド近東通信(3)——十五夜の悲歌」『大阪朝日新聞』1938年5月20日。

「わが各國大使館に文化“宣傳官”を設く——情報圖書館と呼應して活躍 アフガニスタンに日本大學を創立」『東京日日新聞』1938年5月30日。

「支那の新生活線(上)——蜿蜒たる曲徑斷崖 國境越せば忽ち悪路」『大阪朝日新聞』1938年6月12日。

「支那の新生活線(下)——蔣の急壓で工事促進 “建設の犠牲”雲南農民」『大阪朝日新聞』1938年6月13日。

「國府の落ち行く雲南(上)——援支外力の新接觸點 海拔数千呎の高地」『大阪朝日新聞』1938年6月15日。

「ヴァガボンド通信(上)——老巧・英國の深謀 エジプトの一切を語る「三つの言葉」」『大阪朝日新聞』1938年6月16日。

「國府の落ち行く雲南(下)——英佛の利権競争始る 夢でない!蘭貢・昆明ルート」『大阪朝日新聞』1938年6月16日。

「ヴァガボンド通信(中)——英國の外交技巧 市場を荒されたエジプトの日本商品」『大阪朝日新聞』1938年6月17日。

「ヴァガボンド通信(下)——故國の唄を聞く 各國スパイの集散地」『大阪朝日新聞』

1938年6月18日。

「REMAINS OF ANCIENT CITY FOUND——FIRST BRITISH ARCHAEOLOGICAL EXPEDITION TO AFGHANISTAN IMPORTANT DISCOVERIES MADE」『The Statesman』1938年10月5日。

「大陸政策と宗教法案」『東京日日新聞』1939年3月7日。

「法案修正には應ぜず 回教の“尊重”を言明——宗教團體法案政府解決策」『東京日日新聞』1939年3月7日。

「政治家と宗教——回教問題 蘇峰生」『東京日日新聞』1939年3月8日。

「友邦イラン漲る喜び——世界各國から飛行機で飲物類をどしどし輸送 豪華・偲ばれる盛儀」『大阪毎日新聞』1939年4月14日。

「イラン國皇太子御結婚晚餐式——カイロで華やかに」『大阪毎日新聞』1939年4月14日。

「入乱れる各國勢力——多難の道切開く回教民族 わが翼の使節待つ新興國を語る山本氏」『大阪毎日新聞』1939年4月14日。

「カラチへ快翔——そよかぜ号アラハバッドで給油」『大阪毎日新聞』1939年4月14日。

「イラン國喜びの絵姿」『東京日日新聞』1939年4月14日。

「“そよかぜ”カラチ著——明後日テヘランへ」『東京日日新聞』1939年4月14日。

「そよかぜ号ゴール寸前——勇躍、テヘランへ向ふ」『大阪毎日新聞』1939年4月16日。

「近東四國會議とは——バルカン危機に鑑み 保身條約再検討 “獨伊”“英佛”への去就注目」『東京日日新聞』1939年4月26日。

「英・ソの衰勢を洞察 “新興近東”提携へ——今夏テヘランで四國會議を開く 獨ソ兩代表士へ」『東京日日新聞』1939年4月28日。

「ラヂオ——回教を語る 我が文化への影響」『東京日日新聞』1939年5月6日。

「園藝の恩人を悼む」『東京日日新聞』1939年5月14日。

「奉祝申込みも一蹴——ソ聯を毛嫌ひするイラン國 奉祝の旅から歸つたえ江口少佐」『東京朝日新聞』1939年6月2日。

「回教文化論——回教圈展覽会の任務（上） 小林元」『東京日日新聞』1939年11月14日。

「對英地中海共同作戰に ソ聯・土くどき落しへ——ユーゴの“離反”に狼狽」『東京日日新聞』1939年(?)。



「兩公使信任状捧呈」出所不明、1939年(?)。

「アフガニスタンから通商使節團來朝——共栄圏、近東へ伸ぶ」出所不明、1941年1月29日。

「アフガニスタンへ——答禮使節團派遣 外相言明」『読売新聞』1941年1月31日。

「敢然、英の侵略を排す——首都で日本品が大持て 尚武の國アフガニスタン」『東京日日新聞』1941年2月1日。

「沙漠の國の珍客——アフガニスタンから經濟使節團が來朝 きのふ神戸に上陸」『日日新聞』1941年4月4日。

「きのふ入京 ア國經濟使節團」『朝日新聞』1941年4月5日。

「使命は貿易親善——アフガニスタン使節團入京」『日日新聞』1941年4月5日。

「アフガン使節團紹介招待會」『日日新聞』1941年4月6日。

「アフガン使節團内原見學」『日日新聞』1941年4月7日。

「アフガン駐劄公使に小林氏」『朝日新聞』1941年4月8日。

「内原魂を故國に——外國使節團見學の感想 アフガン使節團」『日日新聞』1941年4月8日。

「ア國使節歡迎園遊會」『朝日新聞』1941年4月9日。

「アフガン使節歡迎園遊會」『日日新聞』1941年4月9日。

「ヒマラヤを中心とした山名考(1)——初期測量者の苦心」『朝日新聞』1941年4月22日。

「ヒマラヤを中心とした山名考(3)——繙く天山の探檢史」『朝日新聞』1941年4月24日。

「ヒマラヤを中心とした山名考(4)——初征服は歴山大王」『朝日新聞』1941年4月25日。

「ヒマラヤを中心とした山名考(5)——前人未踏の北崑崙」『朝日新聞』1941年4月26日。

「ヒマラヤを中心とした山名考(6)——“ソロモンの王座”」『朝日新聞』1941年4月29日。

「ヒマラヤを中心とした山名考(7)——傳説の山“老婆の家”」『朝日新聞』1941年5月1日。

「ヒマラヤを中心とした山名考（8）——氷河と峠名に面白い名前」『朝日新聞』1941年5月2日。

「“動く沙漠”と蜃気楼——イラク軍に地の利の強味」『朝日新聞』1941年5月4日。

「起上つたイラク——欧亜を結ぶ石油王國」『日日新聞』1941年5月4日。

「ヒマラヤを中心とした山名考（9）——ストラツチイ氏の功績」『朝日新聞』1941年5月6日。

「“高原の國”へ行く わが土木技術団——本月中旬六氏アフガニスタンへ」『読売新聞』1941年5月10日。

「ヒマラヤを中心とした山名考（11）——“裸の山”ナンガ・パアルバット」『朝日新聞』1941年5月13日。

「アフガン使節お別れ晩餐會」『東京日日新聞』1941年5月13日。

「各方面の厚意を感謝——アフガン經濟使節團長から挨拶」『朝日新聞』1941年5月14日。

「ヒマラヤを中心とした山名考（12）——究めにくい三秀峰の語源」『朝日新聞』1941年5月14日。

「アフガン經濟使節團長に勲章御贈與」『東京日日新聞』1941年5月15日。

「夢を貫く大計画——東京—伯林を十日間 中亞横断の直通列車」出所不明、1941年11月3日。

「十年前からこの雄圖——『日本の技術なら必ず成功だ……』 提唱者：湯本昇氏の確信」出所不明、1941年11月10日。

「中央アジア横断鉄道【一】——軌條・車輛の構造 久保田敬一」『東京日日新聞』1941年11月11日。

「中央アジア横断鉄道【二】——天山南路の資源 渡邊哲信」『東京日日新聞』1941年11月12日。

「中央アジア横断鉄道【三】——文化的意義 笠間杲夫」『東京日日新聞』1941年11月13日。

「アフガニスタン記——現存する“中世紀の國” 覆面女と祈りの明暮れ」『朝日新聞』1953年8月3日。

「カラコラム・ヒンズークシ 京大学術探検隊—第1報——秘境の王様が大歓迎 キモ

を冷やすヒマラヤ山中の難飛行」『朝日新聞』1955年5月30日。

「カラコラム・ヒンズークシ 京大学術探検隊—第2報—クエッタの収穫 “種無しザクロ”も手に入る 日本にない野生ヨモギ」『朝日新聞』1955年6月19日。

「欧州戦争と東洋の新情勢—上—東方民族の盛衰へ 前大戦の轍を踏まん」出所不明。

「欧州戦争と東洋の新情勢—中—英勢力弛緩に乗ず ソ聯、印度進攻の途」出所不明。